



© UNICEF/INDA2012-00361/Vishwanathan  
インドのウダイプル産科病棟。母親に見守られながら眠る生後2日の赤ん坊。

# 最も弱い立場にある人々のために成果をあげる

基本的ニーズが満たされていないことにより、自分たちの持つ可能性を開花させる機会を奪われている子どもたちがあまりにも多くいます。その理由は、家族が貧しすぎる、自分の住んでいる村が僻地にある、という場合もあれば、性別、民族的背景、宗教、その他の理由によることもあります。2012年、ユニセフは、子どもが人生においてよいスタートを切ること、質の高い教育、エイズのない世界、すべての男の子・女の子の保護の実現に向けて努力しました。

開発から取り残された子どもたちや家族を支援することは、途方もなく大変なことに思えます。しかし、ユニセフは創立から60年を超えるこれまでの間に達成が困難な課題から逃げたことはありません。

## 乳幼児期

人生のよいスタートを切るには、十分な栄養、予防接種、安全な水、適切な衛生設備（トイレ）、良好な衛生状態はもちろん、赤ちゃんや母親に対する妊産婦ケアも必要です。2012年度、小さな子どもたちのためのユニセフの活動の中心には必ず公平性があり、子どもの生存については、改めて公平性に焦点を置きながら活動を続けることを約束しました。

2012年度、ユニセフは「国連人口基金（UNFPA）」と共に国連事務総長が呼びかけた「すべての女性、すべての子ども」運動の一環として「女性や子どもの命を守る物資に関する国連委員会（UN Commission on Life-Saving Commodities for Women and Children）」を立ち上げました。当委員会は、費用対効果があり、2015年までに600万人以上の命を救う可能性がありながら、十分に活用されていない13の健康保健関連製品の販売・流通方法を改善するよう提案しました。当委員会とパートナー機関は、この取り組みを支援するため、「リプロダクティブ・妊産婦・新生児・子どもの保健についての基金」を設立しました。ユニセフは当委員会の事務局を務め、またUNFPAと共に共同議長も務めています。

国レベルでは、ユニセフはエジプトの「周産期ケア・プログラム」を支援しました。このプログラムでは、64人の医師と120人のコミュニティ保健員のトレーニングを実施し、約6万人の周産期の女性と低年齢の子どもたちが、質の高い保健サービスを受けられるようにしました。1999年に、ユニセフと中国政府衛生部、ならびに中国の最も貧しい40の郡の「子どもと女性のための国家作業委員会」が協働で開始した「安全な母性のためのイ

モザンビークでは  
2012年の  
コレラの  
症例は  
800  
例未満。  
2009年には  
2万例  
ありました。

「インシアティブ」は、2012年に世界保健機関（WHO）が、同国での妊産婦・新生児破傷風の根絶を宣言したことにより、それまでの努力が大いに報われることとなりました。

リベリアの最も困難な状況にある5つの地域において、ユニセフは、肺炎・下痢・マラリアについて、コミュニティの包括的症例管理のトレーニングを600人以上のコミュニティ保健員に対して行う支援をしました。その結果、2012年には3万8,000件近くの症例で紹介・治療が行われました。

包括的な保健サービスの一環として、対象を絞って行った予防接種キャンペーンは、はしかやポリオなどの小児期の疾病を減らすのに効果をあげました。また、広い範囲に及ぶパートナーシップを築いてポリオ撲滅に努めた結果、インドでは、3年前には世界のポリオ症例の半数を抱えていながらポリオを抑え込むことに成功し、2012年にはポリオの根絶が宣言されました。

アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンではまだポリオの感染が残っています。他方、アンゴラとコンゴ民主共和国の両国は、一時この病気のウィルスを退治したにもかかわらず結局復活させてしまった経緯がありましたが、2012年には感染防止に成功しました。ユニセフとWHOは、アフガニスタンにおいて感染を防止するため「ひとつのポリオ・チーム」を組みました。インドはアフガニスタン南部での広報事業に関連し、モニタリング・評価を行う枠組みの改定作業を支援。さらには予防接種員や啓発活動員に向けたトレーニングのモジュールや授業計画の見直し作業も支援しています。インドのアフガニスタンとの連携は、関係国が資源、技術、専門技能を共有する「南・南協力」の典型例です。

2012年度を通し、モザンビークは、ユニセフが技術的にも資金的にも支援している、「コミュニティによる幼少期疾病の包括的管理」を拡大し、「子ども保健週間」を設け、約400万人の子どもたちに対してビタミンA剤の投与、ポリオの予防接種、虫下しの投与を実施しました。この保健キャンペーンでは、マラリア防止のための屋内薬剤噴霧を

53の地区で行い（これにより約850万人がマラリアから守られます）、さらにはコレラ発生への対応も行いました。このため、2012年のコレラの症例は800例を下回りました。2009年に同様のコレラ発生がありました。このときは症例が2万例に上りました。

包括的な保健キャンペーンは子どもたちの命を守るのに役立ちました。ジブチでは、ユニセフは政府と協力し、9万人以上の5歳未満児にはしかの予防接種を行い、同時にビタミンA剤や虫下しの投与を実施し、マラリアを予防する殺虫剤処理を施した蚊帳を提供しました。同キャンペーンの一環として、重度の急性栄養不良になっていた子どもたちの75%、約1万7,000人の子どもたちが、すぐに口にすることができる栄養補助食を支給されました。タジキスタンでは、ユニセフの支援によりジフテリアの予防接種が2回にわたって実施され、90万人の5歳未満児がビタミンAの投与を受けました。約3万人の2歳未満児と1万8,000人の妊婦が微量栄養素のサプリメントを支給されました。

ヨード、鉄、ビタミンAなどの微量栄養素を含む適切な栄養は、子どもの生存、身体や認知の発達にとって不可欠です。2012年6月、国連事務総長は「ゼロ・ハンガー・チャレンジ（飢餓の根絶に向けて）」をスタートさせ、各国政府、団体、農業従事者、企業、その他の団体に対して、生涯のうちに飢餓を撲滅するために協力するよう呼びかけました。

ユニセフは、引き続き「栄養改善拡充のための枠組み（SUN）」イニシアティブにおいて重要な役割を果たしました。このイニシアティブは世界的な運動で、2015年までの間に、世界全体で栄養摂取の改善を図ろうと呼びかける国々が主導しています。ユニセフのアンソニー・レーク事務局長は、この主導グループの2012年度の議長を務めました。このグループは、資源の動員、政策・戦略についての支援と策定、プログラムの導入を通して、各国内において測定可能な成果を達成することに全力を注ぎました。

2012年度、ユニセフは、65を超える国々において「コミュニティ中心の急性栄養不良

管理」を支援し、190万人以上の5歳未満児に対して治療を行いました。乳幼児への栄養供給は、授乳の促進も含め、栄養不良を防ぐというユニセフの戦略の主要な柱のひとつでした。2012年、ユニセフの支援により、69カ国の少なくとも76%の家庭がヨード添加塩を利用しました。

ブルキナファソ政府が、穀物生産の減少により280万人が食糧不足の危機にあり、さらに推定10万人の5歳未満児が重度の急性栄養不良の危険にさらされていると発表したとき、ユニセフは、国連による人道支援の中で栄養支援を担当する支援調整組織のリーダーとしての立場から、10万2,000人の子どもの治療を支援しました。ウズベキスタンの中で最も貧しい地域であるカラカルパクスタンでは、5歳未満児の93%が、ビタミンA剤の投与、虫下しの投与、発育・体重測定、栄養カウンセリングをはじめとする包括的な公衆衛生支援を受けました。

ユニセフは、革新的技術を取り入れ、目標達成のために費用効率の高い手段を優先し、公平性を保ちながら、改善された飲料水や衛生設備（トイレ）の利用に関して格差をなくすことに力を入れてきました。2012年、ユニセフは朝鮮民主主義人民共和国の政府が重力式の給水設備を設計、建設するのを支援し、さらに児童養護施設、保育園、学校、保健ケア施設の水・衛生設備を改良するのを支援。同国の最も弱い立場にある1万2,000人近くの子どもたちを支援しました。ユニセフは、同国で活動する国連機関としては、世界食糧計画（WFP）につぐ規模となりました。次にジンバブエでは、ユニセフの支援により地方や都市部に住む約15万人が安全な水を、約13万2,000人が適切な衛生設備を利用できるようになり、その結果、コレラ、その他の水に関連する感染症による病気や死亡が減少しました。

## 基礎教育と公平性

2012年度、ユニセフは引き続き意欲的かつ实际的な目標を掲げました：すべての子どもたちが質の高い教育を受けられる、革新的で子どもに優しい教育法について教師に研

修を実施する、学習の内容が実践的でコミュニティに役立つようにする、というものです。ユニセフは、国連事務総長の「全世界で教育を最優先に」イニシアティブを積極的に支持してきました。これは、教育支援を促進する、すべての子どもたちを学校に入れる、学習の質を高め地球市民としての権利を育成するためのものです。ユニセフは、「ポスト2015開発目標」を具体化する戦略を詳細に検討し、引き続きジェンダーの平等を訴えて国連女子教育イニシアティブ（UNGEI）の指導的役割を果たしました。

児童が所定の教育課程を修了できるかどうかは、入学段階で、児童の側に学ぶ準備ができていられるかどうかにかかっています。つまり教育は認知的・社会的・情緒的・身体的発達を含めた健全な人生のスタートに根差しているということになります。2012年、リビア教育省は国内の全4,800校の評価を行い、2011年の暴動により多大な打撃をこうむった教育部門の現状について基本データを収集しました。ユニセフはこの評価作業を支援し、NGOの「技術協力と開発のための機関（ACTED）」が技術的な支援を行いました。ユニセフはモルドバにおいても就学前における教育や基礎教育格差是正のために支援を実施。幼稚園のない農村部の2,000人の子どもたちが新たに保育園に行けるようになり、5万7,000人の低年齢の子どもたちが認知機能の発達によりおもちゃで遊べるようになりました。

包括的な教育とは、すべての子どもたち—ジェンダー、収入、居住地、宗教、民族的背景、障がい、その他の理由によらずに—教育課程を修了する道が用意されていることを意味しています。グルジアの教育・科学省はユニセフと協力して、包括的な教育の対象を5校から56校に広げ、障がいのある子どもたちが体育やスポーツを楽しめるようにし、さらに中途退学した子どもたちに修了の2度目のチャンスを与える革新的なモデルを開発しました。ニジェールにおいては、ユニセフは、50人のカウンセラーと50人の教師に対する点字のトレーニングを支援し、聴覚・視覚障がいのある学生を教育できるよう手話教授法の支援を大学に対して行いました。

2012年、  
ユニセフの  
支援により、

69カ国の  
少なくとも

76%の

家庭が  
ヨード添加塩を  
利用しました。

学校において水、トイレや手洗い場などの衛生設備を整えることは全体的に健康な環境を普及させる上で不可欠であり、特に女の子の教育改善には有効な手段です。ユニセフとインドネシアの地区当局は、112の学校に総合的な水・衛生設備（トイレ）・衛生教育プログラムを導入し、手洗いと改良したトイレを利用することの重要性を生徒たちに教えました。6つの地区の4万人を超える児童と教師がこの支援を受け、当プログラムは政府が全国展開を予定しているひとつのモデルとなっています。

危機の際、学校は和みや慰めの場になることがしばしばあります。しかし、教育は子どもたちが最も必要とするときに中断されてしまうことが多々ありました。最近のデータによれば、学校に通うことができない子どもたち

© UNICEF/NYHQ2012-0218/Romenzi

シリア紛争による影響がある街で、銃声や爆撃のもと、家の出入り口に隠れる子どもたち。



ちの40%超が武力紛争の影響を受けた国に住んでいると言います。2012年、ユニセフ、オランダ政府、参加国、その他のパートナー機関で構成されている4年間にわたるパートナーシップ「平和構築・教育・アドボカシー（政策提言）プログラム」では、紛争終結後に教育システムを再構築する上で主要な阻害要因となっている事柄を13カ国について分析しました。

ユニセフはシリアの危機に対応し、同国の推定7万9,000人の子どもたち、そしてイラク、ヨルダン、レバノン、トルコにいるシリア難民と難民を受け入れているコミュニティ（ホスト・コミュニティ）の子どもたちが、教育を継続して受けられるよう支援しました。

ユニセフはレバノンで、約3万人の最も弱い立場にあるシリア難民やレバノンのホスト・コミュニティの子どもたちに対する就学支援や基礎教育の教材提供を含む「バック・トゥ・スクール（学校に戻ろう）」イニシアティブを実施しました。さらにペルーのロレート県で起きた大規模な洪水に対応して、ユニセフは地域の教育委員会に緊急時カリキュラムを提供し、約3,000人の子どもたちに教育キットを提供しました。約2万人の児童が学校に戻ることができました。

## HIVとエイズの根絶

2012年、ユニセフは、子どもや母親たちの間のHIV感染を防止・治療する、エイズのために両親を失った子どもたちへの支援を強化する、青少年が抱えるリスク・脆弱性を減らす、という目的を果たすため現場で努力しました。スワジランドでは、保健省、世界保健機関（WHO）、その他の戦略的パートナーと緊密に連携し、HIVの母子感染予防（PMTCT）のために、抗レトロウイルス剤による治療を強化し、HIVに感染した妊婦の86%がこれを受けられるようになりました。またユニセフの支援により、抗レトロウイルス剤による治療を開始する子どもたち（0-14歳）の人数が増え、2012年末までに全体の約67%が治療を受けています。

マラウイ、ザンビア、ジンバブエなどのエイ

ズが蔓延する数カ国では、社会から置き去りにされ貧困に陥っている家庭をユニセフが支援し、国が支給する現金給付プログラムが適用され、2012年度は数十万の子どもたちにこれが行きわたりました。

ユニセフの東アジア・太平洋地域に区分されているすべての国々で母子感染による乳児 HIV 感染の防止努力が行われており、現在最も効果があるとされる投薬計画に切り替える努力がなされています。ユニセフが支援した HIV の母子感染予防 (PMTCT) の革新的な例としては、カンボジア、フィジー、キリバス、ソロモン諸島、バヌアツで行った即日迅速検査、ミャンマーで行ったコミュニティにおける検査、東ティモールで行った分娩中の女性に対する緊急 HIV スクリーニングのカリキュラム開発とトレーニングがあります。

2012年7月にワシントンD.C.で開催された「第19回国際エイズ会議」において、ユニセフは、HIVの治療を簡素化し、これを出産前の基礎保健ケアに組み入れるために、より有効で革新的な政策・製品・実践方法が必要であると主張しました。ユニセフは、「子どもたちや若者のために流れを変えよう」をテーマにした本会議をリードしました。女性と10代の女の子に焦点を合わせて HIV 感染を抑制できるようなプログラムや科学的な方法が討議されました。

ユニセフは MTV および「米国大統領エイズ救済緊急計画」とパートナーシップを組み、HIV 感染の脅威にさらされている若者の苦境を扱ったテレビドラマ・シリーズ「シュガ：愛、セックス、お金」の制作に協力しました。2012年、賞を取ったこのテレビドラマはラジオドラマに仕立てられ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ケニア、レソト、タンザニア、そして南アフリカの3つの州で放送されました。この地域の若者の人口を合わせると4,500万人に上ります。この番組は、レイプ、何かと引き替えに強制される性行為、同時期に複数の相手と行う性行為など、しばしばタブー視される話題を扱ったため議論を巻き起こしました。

ユニセフが、イランにおいて保健・医学教

育省やエステグラル・フットボール・クラブと新たに組んだパートナーシップでは、青少年のサッカーへの熱い思いを利用して、選手からのメッセージを通じて HIV やエイズについての認識を高めました。

ネパールでは、ユニセフは青少年向けの HIV リスク低減セットの開発にあたって技術的、資金的支援を行いました。参加型アプローチを取り、このイニシアティブには商業的性的搾取を受けている10代の女の子たちが参加しました。続いて、HIVと共に生きる女性たちの全国ネットワークに所属し青少年の HIV 感染リスクの低減についてトレーニングを受けているメンバーが、25のコミュニティ団体に対してトレーニングを行いました。最終的に1,250人の若者が HIV を防ぐスキルや知識を習得しています。

## 保護される権利

暴力・搾取・虐待から子どもたちを守ることは、2012年におけるユニセフの活動の中心を成していました。いくつかの部門が連携したイニシアティブにより、子どもたちは武力紛争・有害な慣習・冤罪から保護されることになりました。11月、ユニセフは「子どもたちをより良く守るために (Protecting Children Better)」と題された世界的な会議で子どもの保護の必要性を強く主張し、この会議により子どもの保護制度についての最新の調査と見解が整理統合されました。性的暴力の根絶を目指す公共・民間部門間のパートナーシップである「女の子たちのために一緒に (Together for Girls)」は8カ国と協力し合い、2012年に2カ国と初の会合を持ち、女の子に対する感情的・身体的・性的暴力の程度と影響についての全国的な世帯調査法を話し合いました。調査結果は政府が実施するプログラム・政策・対策に反映される予定です。

2012年には、「子どもの権利条約」に関して重大な前進が見られました。11カ国が「児童の売買、児童買春及び児童ポルノに関する児童の権利に関する選択議定書」を批准、さらに7カ国が「武力紛争における児童の関与に関する選択議定書」を批准し、条約締約

2012年には、数十万人の子どもたちが、ユニセフが支援する全国的な現金給付プログラムの恩恵を受けました。

国がそれぞれ 163 カ国、151 カ国に達したのです。女性性器切除/カッティングについて、国連人口基金（UNFPA）とユニセフが共同プログラムを実施した結果、アフリカ全土の約 1,775 のコミュニティがこの慣習の廃止を宣言し、2008 年以降この慣習を取りやめたコミュニティの累計は 1 万に達しました。

2012 年には 3 つの地雷アクションプログラムが開始され、現在では世界中で約 20 カ国がこのようなユニセフ支援のプログラムを実施しています。軍隊や武装グループに加わっていた 5,300 人を超える子どもたちを解放し、家族やコミュニティに復帰させるための支援が、中央アフリカ共和国、コロンビア、コンゴ民主共和国、ミャンマー、ネパール、フィリピン、ソマリア、南スーダン、スーダンで行われました。

ユニセフは、ソマリアの暫定政権と新しく結んだ協定を通して、武力紛争で捕らえられた子どもたちを解放しました。この協定には「子ども兵士の徴用と利用廃止のための行動計画」「子どもたちの殺害と傷害を終わらせるための行動計画」も含まれており、この種の協定としては世界初となりました。これらの計画により、関係者たちは、徴用・徴募された子どもたちの解放を全国で進め、更生・社会復帰サービスを実施できるようになります。

ユニセフの支援により、約 80 カ国で 2,950 万人の子どもたちが出生登録されました。コンゴ民主共和国でのユニセフの活動では出生登録が優先され、2012 年を通して 35 万 500 人を超える子どもたちが登録されまし

た。ベリーズでは複数の支援団体による「子どもたちを数に入れよう（Make Your Child Count）」キャンペーンにより、従来のサービス拠点から遠く離れたコミュニティでも出生登録が行われました。その結果、同国では出生登録が 100% に近づきつつあり、最も困難な状況に置かれた 10% の男の子や女の子も、出生登録の完了と共に、教育・保健ケア・その他の必須サービスをまもなく受けられるようになります。

## データ面でのリーダーシップ

2012 年には、データの収集、分析、配信を強化する上で大きな前進がありました。ユニセフは引き続き「複数指数クラスター調査（MICS）」によるデータ収集を支援し、改良した「ChildInfo」ウェブサイトによりデータ・モニタリング能力を強化しました。（17 ページのパネル 2 参照）

ユニセフはパートナー機関と連携し、国レベルのミレニアム開発目標と人間開発の状況をモニタリングするツールとして、「国連開発グループ」が承認したソフトウェア・データベース「DevInfo」に対して、さらに開発と更新を行い、2012 年には「DevInfo 7」が稼働しました。

2012 年、ユニセフは、プログラムの強化、公平性の推進、パートナーとの連携改善のために「MoRES」の普及をさらに進め、各国が子どもたちや女性の状況を調査し、その進捗状況の報告をする支援を引き続き行っています。（8 ページのパネル 1 参照）

ユニセフの  
支援により、  
2012 年には  
約 80 カ国で  
2,950  
万人の  
子どもたちが  
出生登録  
されました。

子どもたちが統計に反映されていなければ、彼らは存在しないこととなり、権利や福祉を向上させる政策やプログラムから漏れてしまいます。したがってユニセフは、データを収集、分析、配信するよう努めています。そして国連やその他のパートナーと連携して、各国政府が子どもたちや女性の状況をさらにくわしくモニタリングするのを支援しています。

「ミレニアム開発目標（MDGs）」の子どもに関する目標についての報告は、国連機関の中では主にユニセフが担当しており、機関間の支援を得ながら、複数のデータについて詳細な分析を行っています。ユニセフは、44 ある MDG 指標のうち 17 の指標の進捗状況を測定するのに使われるデータを提供しています。

### 正確なデータの収集

これまで 20 年近くにわたり、ユニセフは 100 を超える国々において 240 の「複数指数クラスター調査（MICS）」を支援してきました。第4次の「MICS」（2009～2012年）は 2012 年に終わりました。この第4次の「MICS」調査は、50 カ国において行われました。第5次の「MICS」も準備中であり、バングラデシュではツールやガイドラインがテストされました。パイロット版の「MICS」により、20 の社会的に最も恵まれない地区の基礎データが得られ、また今後行われる全国調査で、データ収集にあたるバングラデシュ統計局からの派遣チームのデータ収集能力の育成にも役立ちました。

カザフスタンでは、2010～2011年に行われた「MICS」により、子どもの権利は全般的に向上したものの、教育、経済事情、居住地の地理的位置による格差が広がっていることが明らかになりました。このデータに基づき、政府はユニセフの支援のもと、子どもの福祉に関する地域レベルでの区分別の調査を初めて行いました。これは、子どもの保護システムでの深刻なギャップに目を向けるものであり、乳児と子どもの死亡防止に再度努力するためのものでした。

ユニセフがまとめた、あるいはユニセフの支援により作成された「MICS」やその他のデータは、ユニセフの統計ウェブサイト <[www.childinfo.org](http://www.childinfo.org)> を通じて広く配信されています。このサイトにはデータベースや分析報告書も掲載されています。